

講義ユニット名	公衆衛生学	所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	えぼした あきら 烏帽子田 彰	所属	公衆衛生学 (内線 5167)
		メール	duck@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	えぼした あきら 烏帽子田 彰	所属	公衆衛生学 (内線 5167)
		メール	duck@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	<p>講義(含&gt;ワークショップ等)及び実習を主体として催講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義及びワークショップは積極的な授業参加を期待する。</li> <li>・ 予習を原則とし双方向性の高い授業として位置づけている。</li> <li>・ 講義中の小レポートは適宜実施する。</li> </ul>		
概要	<p>医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の確保の基本理念である”正義(Justice/社会経済健康等の格差の是正の思想と方法論等)”を軸として、公衆衛生(Public Health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くことと広義の貧困対策や諸格差の是正としての社会的健康決定要因の重要性)を学ぶ。このため、社会・地域の健康を予防・疫学・制度等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などにつき講義・実習ならびに演習等により学習する。また、健康領域の政策科学・医療システムの概要を示し、制度の成り立ちや運用などを含めた講義とする。そして、医学・医療の最終的な目標(広義)である”生命の質・日々生活の質・人生の質(=QOL/quality of life)の保障による個人～社会の満足・幸福・達成感等”について認識と理解を深める。</p>		
講義ユニットの 到達目標	<p>社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係を概説できる。</p> <p>環境と健康・疾病との関係(環境と適応、主体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全)を概説できる。</p> <p>社会決定要因について説明できる。</p> <p>各ライフステージの健康問題について説明できる。</p> <p>シックハウス症候群を概説できる。</p> <p>生活習慣に関連した疾病を説明できる。</p> <p>喫煙と疾病の関係と禁煙指導を説明できる。</p> <p>日本における社会保障制度を説明できる。</p> <p>高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。</p> <p>医療の質の評価(質の定義、クリニカルパス)を説明できる。</p> <p>国民医療費の収支と将来予測を概説できる。</p> <p>医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。</p> <p>医療従事者の資格免許、現状と役割、連携とチーム医療を説明できる。</p> <p>診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。</p> <p>薬物に関する法令と医薬品の適正使用に関する事項を列挙できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	<p>毎講義出席をとる。</p> <p>3分の2以上の出席がない場合は本試験の受験資格を与えない。</p> <p>遅刻は0.5カウント扱いとする。</p>		
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)		

<p>評価法</p>	<p>MCQ形式、記述形式の併用にて試験を行う（配点：MCQ 70点以上、記述 30点未満）  本試験における合格基準は、基本的には絶対基準で6割とするが、平均点が6割未満の場合は平均点<math>-1.0 \times</math>標準偏差を合格基準とする。  試験・演習・実習（成果報告）を総合して評価を行う  出席については、講義中配付する出席票の提出状況により判断する。  （講義開始後30分以降に入室した者については原則として欠席扱いとする）  なお、講義中の積極的な質疑や姿勢などを重視する。  【重要事項】  1. 「社会医学」の単位取得には、衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を取得することが必要です。  2. したがって、「社会医学」の単位が取得できず留年となった場合、翌年度に衛生学・公衆衛生学・法医学のすべての科目を再度取得することが必要です。  3. 科目ごとに設定された取得条件（「出席」「試験」「実習」に関する条件）に十分に留意して履修すること。</p>
<p>履修上の注意 アドバイス</p>	<p>各自が日常的に医療と社会及び自己の役割等について実体論により熟考すること。  ユニットの到達目標では、コンテンツ的に示しているが、より具体的な講義のシラバスについては、開講時点で配布する予定である。</p>
<p>推奨参考書</p>	<p>1) 予防医学のストラテジー：生活習慣病対策と健康増進、医学書院、2004  2) マイケルマーモット：社会的健康決定要因～健康政策の新潮流～、日本公衆衛生協会、2017  3) 財団法人厚生統計協会：国民衛生の動向（2016/2017年版：例年8月最新号発売予定）  4) WHO: <a href="http://www.who.int/">http://www.who.int/</a>  5) 厚生労働省：<a href="http://www.mhlw.go.jp/">http://www.mhlw.go.jp/</a></p>